デジ・ドット・コム(DSOM)

顧客ごとに最適化されたサービス、および「5G オープンラボ」を通じた 5G 技術の進化が今後の成長を後押しへ

マレーシア | 通信事業者 | 業績フォロー

BLOOMBERG DIGI:MK | REUTERS DSOM.KL

- 2019/12 期 3Q(7-9 月) は、モバイルサービス収入が前年同期比
 0.7%減、EBITDAが同 3.3%減だったが、2Q(4-6 月)との比較では、
 基礎的 EBITDAが前四半期比 2.7%増、基礎的純利益が同 2.3%増。
- サービス間の登録ユーザー移行もあり、ポストペイドサービス収入 が前年同期比 12.0%増、プリペイドサービス収入が同 11.4%減。
- 顧客ごとにパーソナライズ化されたサービスのほか「5Gオープンラボ」開設による5G通信技術の進化が同社の成長を後押ししよう。

What is the news?

10/18発表の2019/12期3Q (7-9月) は、総売上高が前年同期比2.4%減の15.62億MYR、契約資産償却費用を除くモバイルサービス収入が同0.7%減の14.64億MYR、EBITDAが同3.3%減の7.25億MYR、純利益が同7.9%減の3.62億MYR。ただし、2Q (4-6月) との比較では、モバイルサービス収入は前四半期比0.9%増、一時的費用を除いた基礎的EBITDAが同2.7%増、基礎的純利益が同2.3%増。インターネット収入のモバイルサービス収入に対する比率の継続的上昇が前四半期比の増加に貢献した。

ポストペイド (後払い) サービス収入は前年同期比 12.0%増の 7.17 億 MYR。ポストペイドのインターネット収入が同 19.1%増の 4.98 億 MYR となったこと、およびプリペイド (前払い) サービスからの乗り換えにより登録ユーザー数が同 9.6%増の 299.3 万人となったことが増収に寄与。プリペイド (前払い) サービス収入は前年同期比 11.4%減の 7.40 億 MYR。プリペイドサービスの登録ユーザーの 79.9%がインターネット登録ユーザーとなり、プリペイドのインターネット収入が同 2.0%増の 4.07 億 MYR だったものの、ポストペイドサービスへの移行増加により登録ユーザー数が同 8.1%減の 833.7 万人となったことが響き減収だった。デバイスその他収入は、同 53.6%増の 1.49 億 MYR。

How do we view this?

同社は、次世代 5G 通信ネットワークの生の実証テストを学者や企業、開発者が協働して行うスペースとしてクアラルンプール郊外のサイバージャヤに「5G オープンラボ」を 10/1 に開設した。マレーシアの 5G 政策においても重要な役割を占めるものと見ることができよう。また、同社のスマホアプリ My Digi の平均月間稼働ユーザー数は、1-9 月で前年同期比 28.6%増の 360 万人に達し、デジタル流通チャネルでのアップセル取引件数が増加している。My Digi に加え、全国の Digi store にて中小企業のデジタル化を支援する「中小企業向けビジネス・エキスパート」を導入するなど顧客ごとに最適化されたサービスの拡充を進めており、利益率の向上に資すると期待される。2019/12 通期市場予想は、売上高が前期比 2.4%減の 63.67 億 MYR、当期利益が同 3.7%減の 14.84 億 MYR。

業績推移			>	※参考レート 1	MYR=26.09円
重業在度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12E

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
売上高(百万MYR)	6,597	6,340	6,527	6,367	6,416
当期利益(百万MYR)	1,632	1,476	1,540	1,484	1,513
EPS (MYR)	0.21	0.19	0.20	0.19	0.20
PER(倍)	21.57	23.84	22.65	23.84	22.65
BPS (MYR)	0.07	0.07	0.09	0.09	0.09
PBR(倍)	64.71	64.71	50.33	50.33	50.33
配当(MYR)	0.21	0.19	0.20	0.19	0.19
配当利回り(%)	4.64	4.19	4.42	4.19	4.19

(出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)



フィリップ証券株式会社

配当予想(MYR) **0.19** (予想はBloomberg) 終値(MYR) **4.53** 2019/12/10

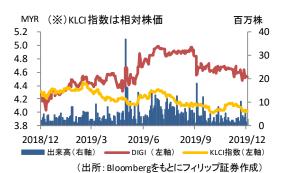
会社概要

1995年にマレーシアで初めてのデジタル移動通信サービスであるGSM1800サービスを開始した通信サービス会社。ノルウェーに本社を持つグローバル通信事業者のテレノール・グループの一員。2019/9末現在、先進的な4Gプラスの通信ネットワーク上にマレーシア国内で約1,130万人の登録ユーザーを有し、4GLTEが90%、LTE-Aが70%のカバー率に達し、光ファイバーネットワークが9,200kmに達するなどマレーシア最大の通信ネットワーク網を擁する。通信サービスのほか、不動産経営やその他関連サービスも展開する。

2019/12期3Q(1-9月)では、インターネットへのアクセス稼働登録ユーザー数が940万人、データ使用量が12.9GBに達した。デジタルソリューションであるスマートフォンアプリの「MyDigi」の平均月間稼働ユーザー数は360万人に到達し、同アプリ内のゲームサービスである「Republic GG」や娯楽・ライフスタイル向けコンテンツを1カ所でまとめて楽しめる「Easy Add」が注目されている。

企業データ (2019/12/11)

ベータ値	1.06
時価総額(百万MYR)	35,221
企業価値=EV(百万MYR)	39,778
3ヵ月平均売買代金(百万MYR)	15.4



主要株主 (2019/12) (%) 1.テレノール 49.00 2.EMPLOYEES PROVIDENT FUND BOARD 13.03 3.SKIM AMANAH SAHAM BUMIPUTERA 7.61

(出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘

+81 3 3666 6980

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

増渕 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp +81 3 3666 0707

デジ・ドット・コム(DSOM) 2019 年 12 月 11 日

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元:フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: http://www.phillip.co.jp/ 本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増渕透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>